

大宮浦高会主催「埼玉県立歴史と民俗の博物館」特別展「明治天皇と氷川神社一行

幸の軌跡―」関連講演会に出席して

文責：平井隆一

去る2月12日（日）朝に鎌倉の自宅を出て、大船から上野東京ラインに乗って、2時間以上かけて辿り着いたのが「武蔵一宮 大宮氷川神社」。私事で恐縮ですが、小生、実は大宮市下町の氷川神社の参道の直ぐそばで生まれて育ったので、氏神様がこの氷川神社でした。子どもの頃、よく大宮公園のボート池や動物園によく連れて行ってもらいました。その関係から大宮浦高会主催のイベントにかこつけて、何十年振りかで「氷川様」に詣でようと思い立ちました。

大宮駅東口を降り、駅前通りを真っすぐ下り参道へ。交差点にある交番前を左折し、立派に拡幅された参道を神社の方へと歩く。砂利道は昔のままだが、両側の植え込みは市民が憩えるように、岩やベンチが綺麗に整備され、武蔵一宮に相応しいゆったりとした参道となっていた。私の子供のころは、両側に掘っ建て小屋風のお店が軒を連ねており、多分違法占拠だったのだろうが、そこには大宮小学校の同級生も多く住んでいたため、その行く末が思われる。

会場の「埼玉県立歴史と民俗の博物館」は、氷川神社の裏手、通称ボート池の奥に建てられたもので、勿論私どもの子供時代には無かった。面白いのは、浦高の藤野事務局長の前職がこの館長だそうで、当日も主催者側の一人として活躍されておられた。講演会は午後1時から氷川神社権宮司である東角井真臣氏（浦高49回）が演壇に立って、スライドを駆使しながら氷川様と明治天皇に関する話が展開された。尚、湘南浦高会からは小生を含めて3名参加した。

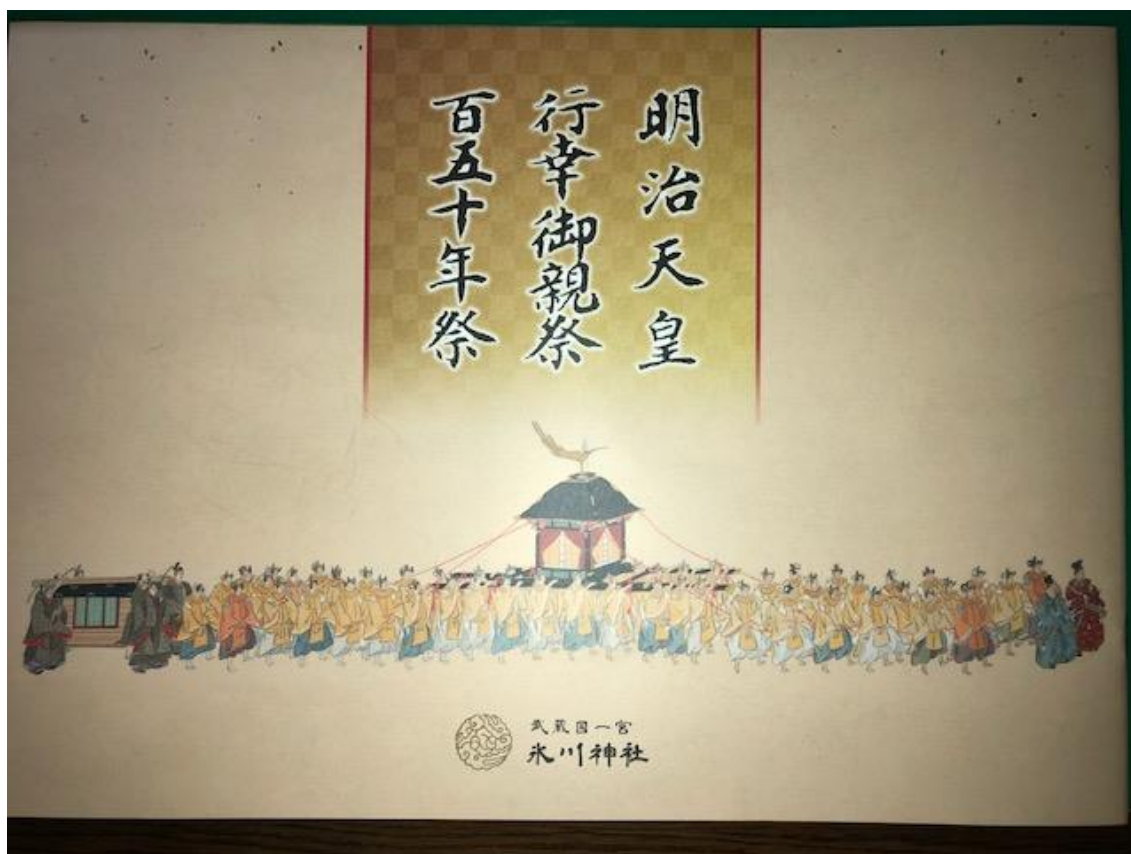


武蔵一宮 氷川神社

東角井権宮司による氷川神社における歴史解説の要点は下記のとおり。

1. 縄文時代 境内の遺跡から縄文時代の土偶や耳飾りが発掘された
2. 第 5 代孝昭天皇の御代に創建と伝えられる
3. 71~130 年 第 12 代崇神天皇の御代に日本武尊が東夷鎮定祈願
4. 724~749 聖武天皇の御代に武蔵一宮と定められる
5. 9 世紀中頃~11 世紀 氷川神社東遺跡から日本で初めて「口琴」と呼ばれる楽器が出土
6. 1180 年 源頼朝が武蔵国入りし、氷川神社の再建を有力豪族であった土肥実平に命じた
7. 1197 年 源頼朝が氷川神社に参詣し、神馬と神剣を奉納
8. 1611 年 徳川秀忠の側室（保科正之の母）が安産祈願
9. 1615 年 徳川家康が神輿 1 基を寄進
10. 1701 年 徳川綱吉が本地堂を再建
11. 1868（明治元）年、1870 年、1878 年 明治天皇が行幸
12. 1921 年 大正天皇行幸
13. 1934 年 昭和天皇行幸
14. 1962 年 池田首相参拝
15. 1967 年 昭和天皇参拝
16. 1993 年 今上天皇皇后両陛下参拝
17. 2017 年 明治天皇行幸 150 年祭大祭

次に、展示解説に移り、3 班に分けて博物館の展示担当学芸員と織本重道氏（大宮郷土史研究会会長、高 12 回）と藤野事務局長（高 22 回）の案内により特別展を見学した。明治天皇行幸当時の氷川神社の絵図や明治天皇ゆかりの品の数々が展示されるなど、大変充実した展示会であった。織本氏曰く、「これほどの内容の展示会はこれが最初で最後だろう」との高評価だった。



氷川神社発行「明治天皇行幸御親祭百五十年祭」パンフレット

その後、出来立てのご当地ビールを飲める「パブ氷川の杜」に会場を移して、常任理事・大宮浦高会会長の今村正道氏（高 13 回）主催の特別反省会が行われた。何と 20 名以上の大賑わいで、氷川様の話題で盛り上がった。(株)氷川ブリューアリー社長の菊池俊秀氏（高 27 回）は脱サラして苦節 15 年かけてやっとここまで来たと、感慨深げに創業からの苦労を話しておられた。生ビールは壁の向こうにある醸造タンクからの直送で、素晴らしいドイツ風の豊潤な味と香りを楽しむことが出来る。もしチャンスがあれば是非覗いて下さい。（さいたま市大宮区東町 2-87）



今村大宮浦高会会長（左）、東角井氷川神社権宮司（中）、篠塚大宮浦高会副会長（右）